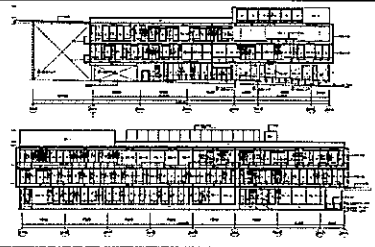


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)井手町新庁舎建設工事	階数	地上3F
建設地	京都府椋喜郡井手町大字井手小字東	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、法22条地域	平均居住人員	375人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年3月 予定	評価の実施日	2022年1月20日
敷地面積	10,677㎡	作成者	藤澤 達郎
建築面積	1,561㎡	確認日	2022年1月27日
延床面積	3,759㎡	確認者	汐見明男



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 0.9 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★ ★ ★ ★ ★</p> <p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み オンサイト手法 87%</p> <p>④上記+ オフサイト手法 88%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内幕を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。(kg-CO₂/年・㎡)</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア= 2.5</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.7</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.1</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 1.8</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.2</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.1</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.4</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.1</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。主要結露水配管は耐用年数が高い材料を使用している。ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。</p>		<p>その他</p> <p>特になし。</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>壁、床、天井のうち二面に断熱材を使用している。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>事務室の天井高2.7m以上。階高:3.7m以上、3.9m未満。0.1≦[響減さ比率]<0.3。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>特になし。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>BPI_m = 0.88</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水コマなどに加えて、省水設備(節水型便器)を用いている。LGSとOAフロアを使用している。ODP=0、GWP=1の発泡剤を用いた断熱材を採用。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>ライフサイクルCO₂排出率が、一般的な建物に対して86%。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい